

平成 2 2 年 度

掛川市教育委員会の事務に関する自己点検・評価報告書

(平成 2 1 年度対象)

平成 2 2 年 9 月

掛 川 市 教 育 委 員 会

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき
平成21年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を報告するものです。

平成22年9月1日

掛川市教育委員会教育委員

平成21年4月1日から平成22年3月31日

委員長	故 榛葉 恒雄 (平成21年5月19日から平成22年3月6日まで)
委員長職務代理者	松下 一徳
委員	平松 季哲
委員	山本 和子
教 育 長	杉浦 靖彦

目 次

1	はじめに	1
2	点検・評価の導入の目的	1
3	点検・評価の対象	1
	（１） 教育委員会の活動	2
	（２） 教育委員会が管理・執行する事務	2
	（３） 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	3
4	点検・評価の方法	4
5	掛川市教育委員会の自己点検・評価シート	6
6	総合評価	1 4
7	評価を受けて	1 6
8	資料編	1 7
	（１） 平成２１年度「掛川市の教育〈人づくり構想かけがわ〉」	1 7
	（２） 関係法令	1 8
	（３） 平成２１年度教育費予算	1 9
	（４） 総合計画数値目標に対する現状	2 0
	（５） 用語解説	2 1

1 はじめに

掛川市教育委員会では、「第1次掛川市総合計画」の政策大綱である「生涯にわたり自己を高め、心豊かに暮らせるまち」を基礎として、「人づくり構想かけがわ」を策定し、基本目標や取り組むべき施策を明らかにしています。この「人づくり構想かけがわ」は、毎年公表するとともに市議会をはじめ校長会、園長会、さらには、事務局職員にも趣旨の説明を行い、共有化するとともに施策の実現に努めています。

このような中、平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年4月1日から施行されました。改正にあたって、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、議会に提出するとともに公表しなければならないとされました。そのため、掛川市教育委員会では、法の趣旨に基づき、平成21年度の教育委員会活動に関する報告書を下記のとおり作成しました。

2 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政を執行しています。そのため、教育委員会の基本方針に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、事後にチェックする必要があるものと考えられます。また、教育委員会は地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

こうしたことから、法改正においても教育行政の執行状況について、点検・評価を実施することが義務づけられ、教育行政の基本的な方針策定と同様に、教育委員会が、管理・執行しなければならない事務として位置づけられました。

3 点検・評価の対象

- (1) 対象年度：平成21年度
- (2) 対象内容：教育委員会の活動状況、教育委員会が管理・執行する事務、
教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

① 教育委員会の活動

教育行政の基本的な施策の決定や諸問題の解決策の重要案件等を審議決定するため、原則として毎月１回定例会を開催し、必要に応じ緊急案件を審議する臨時会を開催しましたので、その開催状況や運営状況について評価を行います。

また、会議の公開、保護者や地域住民への情報発信、教育委員会・首長の連携、教育委員の自己研鑽、幼稚園や小中学校・所管施設の訪問状況等についても評価を行います。

② 教育委員会が管理・執行する事務

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条及び「掛川市教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則」第２条に規定されている以下の１５項目の事務の管理・執行について対象としました。

- ア 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること
- イ 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること
- ウ 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること
- エ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免、その他の人事に関すること
- オ 教育予算その他議会の議決を経るべき事項
- カ 学校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導の基本方針に関すること
- キ 重要な教育財産の取得及び処分を申し出ること
- ク 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること
- ケ 教育委員会に設置された附属機関の委員の任免を行うこと
- コ 学校の通学区を設定し、又は変更すること
- サ 教科書の採択に関すること
- シ 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること
- ス 掛川市文化財保護条例の規程に基づく文化財の指定、解除に関すること
- セ 請願及び重要な陳情・要望に関すること
- ソ その他重要かつ異例な事項に関すること

③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

平成21年度掛川市の教育は、基本目標を「夢実現に向かう、心豊かで凜(りん)とした市民」とし、基本方針を「知性と創造性にすぐれ、豊かな心と健やかな体をそなえた、自己実現をめざす自立した市民」の育成としました。

構想推進の基本的な考え方は3点あり、1つ目は「掛川市総合計画」の段階的推進を図る。2つ目は、市民総参加による教育の振興に努める。「かけがわ教育の日」の開催。3つ目は、「生涯学習運動」が豊かに花開くまちづくりの一翼を担う、です。

そして、「人づくり構想かけがわ」の基本目標・基本方針を実現させ「乳幼児教育・学校教育・社会教育」の具現化を図るため、以下のとおり重点と具体的施策を定めていますので、これらを評価の対象としました。

○乳幼児教育・・・豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と人とかかわる力のある子どもの育成。

- ① 養護・教育内容の充実
- ② 保育者の資質・意欲の向上
- ③ 安全・安心で豊かな園環境の整備
- ④ 家庭・地域社会と連携した園
- ⑤ 保育一元・幼保一元化の推進

○学校教育・・・夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きるこどもの育成。

- ① 「確かな学力」の向上をめざす学校
- ② 豊かな感性、健やかな心身を育む学校
- ③ 家庭・地域社会と連携した開かれた学校
- ④ 社会の変化に対応する学校
- ⑤ 信頼される学校

○社会教育・・・市民の主体性を尊重し、学校・家庭・地域社会の連携・協力の下、心身共に健康でたくましく知性と創意に富み、郷

土に誇りと愛着を感じる市民の育成。

- ① 次代を担う青少年健全育成の推進
- ② 家庭教育力の向上
- ③ 生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり
- ④ 郷土の歴史や文化を愛する心の育成
- ⑤ 生涯スポーツの振興

4 点検・評価の方法

点検・評価は、自己点検・評価シートを作成し、事業内容・事業体系を大項目・中項目・小項目に区分し、大項目1では、小項目単位で、大項目2では、中項目単位で、さらに大項目3では、重点と具体的施策ごとに自己点検・評価を行いました。評価の項目数は41項目です。

自己点検・評価の内容については、外部識者により組織された、「掛川市教育委員会評価委員会」において検討を行いました。

(1) 大項目「1 教育委員会の活動」 項目番号1～8

教育委員会の活動について、8つの小項目に分け、教育委員会の運営状況や教育委員会と事務局との連携などを点検・評価するものです。

小項目ごとに「優先度」「達成度」を設定し、「21年度実績」欄に21年度に行った具体的な事業を、「21年度点検評価」欄に反省や今後の改善点などを記入しました。

(2) 大項目「2 教育委員会が管理・執行する事務」 項目番号9～23

21年度に審議した案件とその審議状況をまとめることにより、点検・評価としました。

(3) 大項目「3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

項目番号24～41

「掛川市教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則」等により、教育長に委任されている事務について、点検・評価するものです。

重点と具体的施策ごとに「優先度」「達成度」を設定し、「21年度実績」欄に21年度に行った具体的な事業を、「21年度点検評価」欄に反省や今後の改善点などを記入しました。

掛川市教育委員会評価委員会

1 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	山崎保寿	静岡大学教育学部教授
副委員長	和久田雅之	掛川市図書館協議会 会長
委 員	山下 徹	静岡新聞社 編集局文化生活部 専任部長
委 員	宇佐美千穂	掛川市民大学院 卒業生
委 員	染葉亜希子	掛川市PTA連絡協議会 理事（母親代表）

2 開催の経緯

平成22年

5月26日(水) 第1回評価委員会

- ・委員の委嘱
- ・平成22年度評価シートの形式、評価の方法について協議

6月17日(木) 第2回評価委員会

- ・平成22年度評価(対象:21年度)の内容について協議

7月30日(金) 第3回評価委員会

- ・平成22年度掛川市教育委員会の事務に関する点検評価報告書について協議

掛川市教育委員会の 自己点検・評価シート			優先度		←達成度										
			◎以下の3段階に分類しています。 ○高 ○中 ○低		<table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎ 4段階評価とし、以下の達成状況により、該当するマスに☆印をつけています。 ○ 達成度 A … 目標を達成またはほぼ達成している (80%以上) ○ 達成度 B+ … 目標をおおむね達成している (60%以上～80%未満) ○ 達成度 B- … 目標を半分程度達成している (40%以上～60%未満) ○ 達成度 C … 目標を達成していない (40%未満)		A	B+	B-	C					
A	B+	B-	C												
大項目	中項目	小項目		優先度	達成度	21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
1 教育委員会の活動	(1) 教育委員会※の会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	1	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td>☆</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C	☆				○定例会を12回(月1回)、緊急案件を審議する臨時会を6回開催した。特に、特別支援教育に関しては、4月・6月・9月定例会、「富士山の日」を学校の休業日にする取組に関しては、2月、3月定例会にて審議され、教育委員より様々な意見が出された。	○教育委員会定例会は、教育委員会の重要な会議であるという位置付けから、優先度は高とした。 ○会議では非常に活発な議論がされており、必要に応じて臨時会を行うなど適切な進行管理ができているため、達成度はAとした。
		A	B+	B-	C										
	☆														
	② 教育委員会会議の運営上の工夫	2	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○移動教育委員会※として、7月臨時会を教育センター、9月定例会を中央図書館、1月定例会を大東支所で開催した。	○学校現場や所管施設の状況等を知る上での訪問を兼ねた移動教育委員会を開催することなどは非常に重要であるため、優先度は高とした。 ○会議では教育委員からの提案によって議題を設定するなどの工夫が課題であるが、積極的に移動教育委員会を開催したことから達成度はB+とした。 ○今後も、園・学校や所管施設での意見交換や視察を兼ねたものを積極的に実施していく必要がある。	
	A	B+	B-	C											
	☆														
(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	3	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td>☆</td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C			☆		○21年度教育委員会の会議の公開について、告示に基づいた傍聴希望者はなかった。 ○21年度議事録の公開請求はなく、議事録の公開は実施されなかった。	○教育委員会の活動を市民に知ってもらうことは重要であるが、移動教育委員会のような会議の運営上の工夫等と比べて優先度は低いと判断し、中とした。 ○20年度に比べて21年度は、小・中学校教職員との意見交換会を行うことで教育現場の声を聞くことができたことから達成度はB-としたが、広報誌やホームページの活用、会議の夜間開催による傍聴希望者への配慮など、今後推進していく必要がある。	
A	B+	B-	C												
		☆													
(3) 教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	4	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○教育委委員会開催前には、教育委員に議事等を配付し、必要に応じて事前説明を行った。 ○各事業の進ちょく状況については、教育委員会において、報告事項として随時報告し、意見を求めた。 ○教育委員発案の議事は本年度なかった。	○適切な教育行政の推進には、意志決定機関である教育委員会と、実行機関である事務局との連携が不可欠であるため、優先度は高とした。 ○教育委員と事務局とが連絡を密にし、教育委員会開催に向けた準備等を行うことができていることから、達成度はB+とした。 ○今後は、審議する案件が年々増加していることから、事前勉強会の実施等の工夫が必要である。	
A	B+	B-	C												
	☆														
(4) 教育委員会と市長の連携	教育委員会と市長との意見交換会の実施	5	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○市長、市長部局幹部職員と教育委員で組織する「人づくり構想かけがわ推進本部会議」※を7月・11月・2月の3回開催した。 ○特別支援教育の推進や「かけがわ教育の日」※など教育行政の主要施策について意見交換を行った。	○教育の振興を図るためには、市長部局との密接な連携・協力が必要不可欠であるため、優先度は高とした。 ○「人づくり構想かけがわ」の具現化を図り、教育施策の充実・発展のため、定期的(年間3回)な意見交換会が実施されていることから達成度はB+とした。 ○今後も、市長部局とより一層の連携・協力が図れるよう、継続した取組をしていく。	
A	B+	B-	C												
	☆														

(5) 教育委員の自己研鑽	研修会などへの参加 状況	6	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td>☆</td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C			☆		○教育委員の視察研修として、愛知県一宮市と石川県金沢市を訪問し、特別支援教育充実のための先進的な取組や小学校における英語教育の取組を視察した。 ○掛川市教育委員会以外が主催する研修に計4回参加した。	○教育委員の自己研鑽は、教育委員会での審議に比べ優先度は低いと判断し、中とした。 ○教育委員に対する研修会の回数は少ないものの、21年度の視察研修は、学校教育における主要な取組に関する視察内容となっており、課題意識をもった研修となっていることからB-とした。
A	B+	B-	C											
		☆												

※＝報告書の用語解説に掲載した用語

大項目	中項目	小項目			達成度	21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
1 教育委員会の活動	(6) 園・学校及び教育施設に対する支援・条件整備	① 園・学校訪問など	7	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○教育委員の幼稚園等訪問は計3回行われた。 ○教育委員の小中学校訪問は、移動教育委員会を含めて6回行われた。また、教育長については、別途新任校長校(6校)へも訪問を行った。 ○「特別支援教育推進検討委員会報告」の地域・保護者意見交換会を3回行い、教育委員も参加して市民から多くの意見・要望を聴取した。	○園・学校訪問は重要であり、教育委員の意欲も高いため、優先度は高とした。 ○21年度も積極的に園・学校訪問を行い、園・学校現場の状況を視察するとともに教職員との意見交換も行うなどしたことにより、達成度はB+とした。 ○22年度は、学校訪問がより効果的に行政に反映させられるよう、教育委員が教職員や保護者と意見交換する場を設定する予定である。
		A	B+	B-	C										
	☆														
② 所管施設の訪問など	8	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○教育センター(7月)、中央図書館(9月)、大東支所(1月)における移動教育委員会などが計8回行われた。	○所管施設の訪問は、教育委員会での審議に比べて優先度は低いと判断し、中とした。 ○現教育センターの移転先の選定や教育センター跡地利用等の問題に関連しての視察を含む移動教育委員会はたいへん有効的なものとなったことから、達成度はB+とした。 ○今後も施設担当者との意見交換の充実を図り、教育施策に反映するような取組としていく必要がある。		
A	B+	B-	C												
	☆														

※＝報告書の用語解説に掲載した用語

大項目	中項目			件数	件数	主要な審議案件・審議結果	主要な案件に対する協議内容
2 教育	(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること	9	-	20年度	21年度	○平成21年度掛川市教育「人づくり構想かけがわ」※について ○平成21年度主要施策・事務事業について ○掛川市幼稚園における「預かり保育」について など計12件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○安全・安心な学校給食の推進について、委員より、食材の質を下げずにしかも安価で提供できる市場ルートの開拓や地産地消の推進の要望があった。その後、文教厚生委員会による大須賀学校給食センターの視察等を行い、地産地消等についての意見交換を行った。 ○掛川市幼稚園における「預かり保育」について、職員にとってこれが過重な負担とならないような体制づくりが必要である旨の委員からの意見に対して、今後、「預かり保育」を担当する職員は専任職員の採用を考えていくとの事務局の回答があった。
				7件	18件		
	(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規定の制定又は改廃に関すること	10	-	20年度	21年度	○掛川市幼稚園保育料徴収条例の一部改正について ○掛川市保育ママ事業実施要項の制定について ○掛川市茶室条例施行規則・掛川城条例施行規則・掛川市竹の丸条例施行規則・掛川市清水邸条例施行規則の廃止について など計24件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○掛川市保育ママ事業※の保育ママの年齢制限(25歳以上65歳未満)について、委員から、希望者には可能な限りやっていただくために現在の年齢幅を広げる旨の意見が出されたが、人の命を預かる事業であることから、体力的な面を考慮して22年度は年齢制限を設けて行っている。
				17件	24件		

委員会が管理・執行する事務	(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	11	—	20年度	21年度	○掛川市南部地区乳幼児教育検討委員会※の設置について ○掛川市教育センターの移転について など計4件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○委員から、教育センター移転後のパソコン室や理科室の設置の有無についての確認がなされた。その他、特に委員からの意見はなかった。
				1件	7件		
	(4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免、その他の人事に関すること	12	—	20年度	21年度	○掛川市教育委員会委員長の選出について ○平成22年度組織機構について ○教育委員会事務局職員に係わる人事異動の内示について など計9件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○教育委員長長の選出について、委員からの「指名推薦」の発言により全会一致で委員長が推薦および選任された。 ○教育委員長職務代理者の指定については、委員からの「指名により、指定」の発言があり、全会一致で職務代理者を指定した。
				9件	11件		
	(5) 教育予算その他議会の議決を経るべき事項	13	—	20年度	21年度	○平成21年度6月補正予算について ○9月補正予算について ○平成22年度教育委員会事務局当初予算編成について など計6件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○教育委員会の予算配分に関して、今後、何よりも教育委員会全体としての優先順位を明確にし、特別支援、教師の多忙化の問題等解消すべき問題を精査した上で、本当に必要なことに予算をつけていくべきとの見解が委員より出された。重要度の高いものに予算をつけ、順次執行している状況にあるが、さらに精査を行っていく。
				4件	6件		
	大項目			件数	件数	主要な審議案件・審議結果	主要な案件に対する協議内容
	(6) 学校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導の基本方針に関すること	14	—	20年度	21年度	○特別支援学級掛川方式検討委員会設置要項について ○平成22年度全国学力・学習状況調査※への参加について ○「富士山の日」※を学校の休業日にする取組について など計9件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○全国学力・学習状況調査※について、委員より、必要性があるのであれば、全児童・生徒に対して実施すべき等の意見が出され協議した。22年度は経年変化を調査するための抽出校7校に希望参加の4校を加えた計11校の実施とした。 ○「富士山の日」について、委員より学校を休業日とするよりも、その日の授業の一環として富士山について考える授業とした方が有意義であり、意義の継続性も保たれる等の意見が出た。22年度は、「休業日」にすることの意義や対応策について、関係者間の意思疎通が十分に図られていると言い難い等の理由から「富士山の日」を休業日とするための「掛川市小学校及び中学校の管理に関する規則」等の改正は行わないとした。
				16件	9件		
	(7) 重要な教育財産の取得及び処分を申し出ること	15	—	20年度	21年度	○21年度において該当する案件はなかった。	
				2件	0件		
	(8) 県費負担教職員の服務の監督の一般方針を定めること	16	—	20年度	21年度	○21年度において該当する案件はなかった。	
				0件	0件		

2 教育委員会が管理・執行する事務	(9) 教育委員会に設置された附属機関の委員の任免を行うこと	17	—	20年度	21年度	○学校評議員※の委嘱について ○平成21年度掛川市子ども読書活動推進会議委員の委嘱について ○掛川市立幼稚園評議員※の委嘱について など計22件について審議を行い、すべての案件が承認された。	○学校評議員の委嘱について、12回の定例会のうち10回について協議案件に出された。委員から、推薦書の様式について、年齢の記載を含めわかりやすい表記の必要性を求められたことにより、様式の改善を行った。
				18件	22件		
	(10) 学校の通学区域を設定し、又は変更すること	18	—	20年度	21年度	○21年度において該当する案件はなかった。	
				0件	0件		
	(11) 教科書の採択に関すること	19	—	20年度	21年度	○平成21年度における掛川市立中学校教科用図書の採択について ○教科書採択について 計2件の審議を行い、承認された。	○教科書の採択は、4年毎または新学習指導要領が採択された年度に行われることを確認した。
				1件	2件		
	(12) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること	20	—	20年度	21年度	○平成22年度学校教育課教職員研修について ○平成22年度幼児教育課研修計画について 計2件の審議を行い、承認された。	○外国人担当教員研修会と掛川市初任者研修について、実施の状況についての確認をした。
				1件	2件		
	(13) 掛川市文化財保護条例の規定に基づく文化財の指定及び解除に関すること	21	—	20年度	21年度	○掛川市指定文化財(阿波々神社の社叢)の指定解除について審議を行い、承認された。	○事務局からの説明の後、特に委員からの意見はなかった。
				3件	1件		

大項目	中項目			件数	件数	主要な審議案件・審議結果	主要な案件に対する協議内容
2 教育 執行 委員 会が 事務 管理・	(14) 請願及び重要な陳情・要望に関するこ と	22	—	20年度	21年度	○21年度において該当する案件はなかった。	
				0件	0件		
	(15) その他	23	—	20年度	21年度	○21年度において該当する案件はなかった。	
				(11)件 (註1)	0件		

註1：平成20年度は分類方法が異なる

	人づくり構想かけがわ 基本目標「夢実現に向かう、心豊かで凜(りん)とした市民」の育成															
大項目	基本目標	重点と具体的施策			達成度		21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	乳幼児教育豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と人とかかわる力のある子どもの育成	①養護・教育内容の充実	24	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td>☆</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		A	B+	B-	C	☆				○公立園の園長会を年5回開催し、うち2回は管理職研修として、「学校評価の推進」をテーマに行った。 ○公立園11園と私立幼保園5園について園訪問を実施し、重点目標達成のための取組や特別支援教育の推進状況の把握を行った。 ○指定研究2年目の大坂幼稚園において、「園・家庭・地域社会の三者による総合的な幼児教育の推進」を主題に、研究発表会を開催した。 ○発達相談員を配置した。	○次代を担う人材育成の基礎となるのは乳幼児教育であるため、優先度を高とした。 ○発達相談員の配置により、特別支援教育の充実が図れた。 ○公立全園において自己評価と学校関係者評価による学校評価を行ったことなどを総合的に判断し、達成度をAとした。 ○要支援児の数が年々増加傾向にあり、今後、加配職員の配置や関係各課との役割分担を図っていく。
		A	B+	B-	C											
		☆														
②保育者の資質・意欲の向上	25	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>		A	B+	B-	C		☆			○公立園を対象とした、園務主任研修会や研修主任育成のためのリーダー交流研修会等を実施した。 ○特別支援教育理解推進のために、市内の公私立幼保合同の「特別支援教育コーディネーター研修会」※を年2回実施した。 ○在園発達支援児保育指導委員会事業として、該当24園167人の園児について巡回相談を実施し、発達支援児※の理解や園の支援体制の確立を図った。	○教育・保育内容の充実には、それを推進していく保育者の資質・意欲向上が重要であるため、優先度を高とした。 ○園務主任研修会では、各園の取組について発表や意見交換が活発になされた。 ○リーダー交流研修では、研修主任の育成とともに、研究指定園の園内研修活性化に成果を上げた。 ○特別支援教育では、発達相談員が配置されたことで、保育の適正化や個別の支援策について、保育現場の悩みに対応できるようになったことなど総合的に判断し、達成度をB+とした。 ○今後も保育者一人ひとりの力量を高めるため、年度ごとにテーマを設定し、研修内容の充実に努める。		
A	B+	B-	C													
	☆															
③安全・安心で豊かな園環境の整備	26	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td>☆</td><td></td></tr></table>		A	B+	B-	C			☆		○乳幼児が、心身共にのびのびと生活できる環境整備を推進するため、園児の安全確保及び園の安全管理などに対する取組強化と施設整備を行うとともに、緊急一斉メールシステムを導入した。 ○佐東幼稚園浄化槽工事や千浜幼稚園プール塗装工事などの高額工事、遊具やプール更衣室の修繕、天井雨漏り、ロッカーの修理といった少額修理を優先順位に基づき行った。	○乳幼児の安全に関わるものであり、優先度は高とした。 ○昨年度作成した「幼稚園・保育園における遊具安全点検マニュアル」と事務処理についての「流れ作業図」を活用し、運用できた。 ○施設の安全確認を行い、必要な施設補修対応ができた。 ○南部地区の幼稚園施設は老朽化が進んでいる。 ○上記を総合的に判断し、達成度をB-とした。 ○今後は、南部地区の幼稚園・保育園の再編成をも視野に入れた年次整備計画の策定が必要である。		
A	B+	B-	C													
		☆														

※＝報告書の用語解説に掲載した用語

人づくり構想かけがわ 基本目標 「夢実現に向かう、心豊かで凜(りん)とした市民」の育成															
大項目	基本目標	重点と具体的施策			達成度	21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	乳幼児教育 豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と人とかかわる力のある子どもの育成	④家庭・地域社会と連携した園	27	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○年1回の保護者アンケート実施を義務付け、「園運営全般について満足しているか」を全園の共通項目として掲げ、自己評価の点検につなげた。 ○平成21年度から、公私立幼保全園を対象にした新たな枠組みの中で保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携強化を推進した。 ○子育て支援センター事業を9園で実施し、延べ67,111名の利用があった。 ○新築移転した三笠幼稚園において、平成22年度4月から預かり保育を試行的に実施するための準備を進めた。 ○虐待防止に向け、要保護児童通告書が福祉課に提出された際は、受理会議やケース会議が開催され、個別の対応を検討した。	○家庭・地域社会との連携は、お互いに育ち合う教育を推進する上で重要であり、優先度を高とした。 ○保護者アンケートは、4段階評価の中でA・B評価合わせて85%以上の数値目標を設定する中、11園全園が目標を大きく達成し、全体平均は97%という満足度を得られた。 ○子育て支援センター事業は、様々な活動・相談業務を通じて、子育ての孤立化や育児不安などに対し適切な支援を行った。 ○「保幼小中一貫教育研究会」への参加については、一部の私立園に温度差があったことなどを総合的に判断し、B+とした。 ○今後は、外国人世帯との連携強化を図るために人的整備を図る。
		A	B+	B-	C										
			☆												
⑤保育一元・幼保一元化の推進	28	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○教育・保育の質的向上を図ることなどを目的とし、公私立幼保園6園の連絡会を開催した。 ○公私立幼保園6園の園訪問を実施し、園の運営状況や幼保園の課題、特別支援教育の推進状況の説明を受けるとともに、保育状況の視察や意見交換を行った。 ○大東・大須賀区域における、将来の乳幼児教育のあり方を見通し、方向性について2年間で協議検討するため、南部地区乳幼児教育検討委員会※を設置し、委員会を4回開催した。	○「掛川市幼児教育振興計画」※に基づいた施策であるため、優先度を高とした。 ○連絡会を開催したことで、開園年数とともに徐々に幼保園の運営が落ち着いてくることがわかった。 ○園訪問では、幼保園としての特色ある園運営にそれぞれが取り組み、実践したことを改善につなげ、努力している様子が伺えた。 ○幼保園運営は乳幼児の育ちにとって就学前教育の保障などの成果をあげているが、構造的課題(国の所管省、財源、制度の違い)もあり、総合的に判断し、達成度をB+とした。 ○今後、幼保一体化推進のために公私立幼保園連絡会の成果を生かし、新しい乳幼児教育振興計画を策定する必要がある。		
A	B+	B-	C												
	☆														
		29	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○達成度については、B+が4項目、B-が1項目であり、基本目標はおおむね達成している。今後は、各項目についてさらに達成度を高めていきたい。	○優先度は重点と具体的施策の5項目の全てが高であるので高とした。達成度については、5項目中、1項目がB-であるが4項目がB+となっており、基本目標は概ね達成しているので、全体の評価としてはB+とした。 ○今後、子育てに関する国の施策が大きく変わることが予想され、国県の動きを注視するとともに、適切に対応していく必要がある。	
A	B+	B-	C												
	☆														

	人づくり構想かけがわ 基本目標 「夢実現に向かう、心豊かで凜(りん)とした市民」の育成														
大項目	基本目標	重点と具体的施策			達成度	21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
		①「確かな学力」の向上を目指す学校	30	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○特別支援学級掛川方式※の在り方について検討委員会を5回開催し、報告を受けた。また、平成20年度末に報告をいただいた特別支援教育推進検討委員会※の報告について保護者や市民の意見を聞くためにホームページで広く意見を求めたり、市内2会場において、5回の「保護者市民意見交換会」を開催した。 ○特別支援を要する児童生徒の教育充実のため学校サポーター※27名を配置した。 ○西中「学力向上」指定研究発表会を開催し、149名の参加者があった。また、第二小「外国語(英語)活動」指定研究発表会を開催し、165名の参加者があった。栄川中学校区「保幼小中連携・一貫教育(中学校区学園化構想※)」指定研究を実施した。 ○学校教育課とALTと共に教材開発をし、文科省英語ノートに準じた掛川市レッスンプラン※を作成し各学校へ配布した。 ○全国学力学習状況調査の平成21年度の結果と平成19年から21年度までの3年間の結果を分析し、「学校改善支援プラン」と「保護者版」の2種類の報告書をまとめた。	○今後の特別支援教育のあり方と学力向上は重要課題であり、優先度は高とした。 ○学校サポーターが9名増員されたことにより一層安定した指導体制が整った。 ○特別支援教育推進検討委員会報告についての「保護者市民意見交換会」を5回開催したことにより、保護者や市民の生の声が聞け、特別支援学級掛川方式検討委員会の協議の参考になった。本委員会の報告をもとに、次年度、掛川市の特別支援学級の設置方針を作成する。 ○「全国学力・学習状況調査」では、小中学校とも各平均正答率の総合計は3年間を通して、県または全国以上であった。 ○学力向上研究、外国語(英語)活動研究は発表会を行い、多くの参加者があり、中学校の授業改善や小学校の外国語活動の指針となったが、中学校区学園化構想の研究や、特別支援の検討は途中であり、次年度以降継続検討をしていくため、本年度の達成度はB+とした。
A	B+	B-	C												
	☆														

3
教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

学校教育
夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

②豊かな感性、健やかな心身を育む学校	31	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td>☆</td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C			☆		○学校図書館司書3名を学校へ派遣し学校図書館の整備を推進した。 ○音楽家派遣、きらりふれあいコンサート、美術展、陸上大会、部活動などにより文化芸術体育行事を推進した。 ○各学校の創意工夫により体育的行事、合唱等音楽活動や美術的な活動を実施した。	○「道徳」「読書活動」「食育」「文化芸術」は子どもの情操を養う上で重要課題であり、優先度は高とした。 ○各校の学校図書館のデータベース化もほぼ完了したが、配架が課題である。また学校図書館司書も増員したい。 ○副読本「二宮金次郎の生き方」第2版は出版から9年経過したため、次年度に改訂をする。 ○掛川市の「人づくり」を目指すため統合的なカリキュラムを研究する「生き方科」研究は、2年間の西郷小指定研究後、1年間空きとなった。しかし一層推進の必要があるため、次年度、新たな指定校を決め、推進する。 ○事業はすべて計画通りであるが、長期的な計画と各校への広がりがあり、今後の課題であるため達成度はB-とした。
A	B+	B-	C										
		☆											
③家庭・地域社会と連携した開かれた学校	32	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td></td><td>☆</td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C			☆		○文部科学省指定「学校評価研究」を桜が丘中学校区で行い、地域住民による効果的な学校評価の在り方を研究した。 ○地域の自然・歴史・文化に関わり、地域の方々の協力のもと、各学校は、田植えや茶摘み体験、河川の水質や生き物の学習、城や工場の見学など、様々な体験学習を実施した。 ○市内9中学校で2年生を中心に3日以上職場体験学習を行った。 ○各校では、読み聞かせ、米作り、お茶つみ、講話などの約1630人の地域ボランティアを活用した教育活動を行った。児童生徒も、敬老会、成人式、地区文化祭、老人施設の草取り、地域の河川や海岸清掃、防災訓練、歳末助け合い等の地域の行事に参加した。 ○中学校区学園化検討委員会※を全5回開催し、園・学校が核となった地域ぐるみの教育のしくみを協議し、報告を受けた。	○家庭・地域社会との連携は学校教育の基盤であり、重要な課題であるため優先度を中とした。 ○市内中学校の職場体験、地域ボランティアの活動、児童生徒の地域活動により、豊かな体験学習、地域交流活動が推進された。しかし、各校個々の取組であり、推進力が弱い。次年度は、大学や退職教職員ボランティア活用、学校図書館支援室設置による図書館ボランティアの推進などを実施する。 ○次年度、地域連携を視野に入れた中学校区学園化研究指定で栄川中学校区が発表年度となり、成果と課題を明らかにする。 ○中学校区ごと、子どもの教育が地域ぐるみで組織的に行われ、園・学校・地域が学園化に向けて一層充実した研究をしていく必要があるため、達成度をB-とした。
A	B+	B-	C										
		☆											
④社会の変化に対応する学校	33	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○市内小中学校の全ての校内LAN※が整備された。 ○外国人児童生徒支援検討委員会を5回開催し、掛川市に在住する外国人の児童生徒の支援について協議し、報告を受けた。 ○外国人児童生徒への支援員7名を配置し、日本語指導、通訳、教育相談等の支援を行った。外国人児童生徒を対象に支援スクールを実施した。 ○原泉小と西郷小の統合準備会を計画的に開催した。3月21日、460名の参加者の中で、原泉小学校閉校式が行われた。 ○児童数100人以下の原田小、日坂小、倉真小地域では、3地区それぞれの計画により協議会を開催した。	○学校の適正配置、原泉小と西郷小の統合については重要課題であるため優先度は高とした。 ○校内LANが全ての学校に整備された。次年度、情報研において「授業での活用」「情報モラル」「セキュリティ」を重点に研修をする。 ○外国人児童生徒への支援員は、大変有効であったが、次年度は、編入学児童生徒への初期適応支援、放課後学習支援など、児童生徒の実態に合った支援をする。 ○原泉小と西郷小の統合は、地域保護者の思いをくみ取りながら、計画的に進められた。児童数100人以下小学校地区の協議会は、次年度も、それぞれの地区の実情に合わせて実施していく。 ○情報教育、適正配置の面で、成果があったが、外国人児童生徒支援については、検討委員会の報告を受け、今後一層支援を充実させていく必要があるため、達成度はB+とした。
A	B+	B-	C										
	☆												
⑤信頼される学校	34	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○特別支援教育と小学校外国語活動の推進のため、教育センターにおいて、教員対象の研修会を新たに開催した。 ○学校管理者と教育委員会との緊急メールシステム※は、6月からの新型インフルエンザ、8月の地震、10月の台風18号、2月の津波、不審者や熊、猪などの出没等の対応で、市教委と学校間、そして学校と保護者間で、指示や情報を伝えたり、報告したりと活用した。校長不在時に備え、教頭との緊急メールシステムも新たに作った。また、御前崎市、菊川市も掛川同様のシステムを構築したため、小笠全域の緊急体制の整備が推進された。 ○施設の耐震補強工事は年次計画に基づき整備を図った。また、施設の維持補修、保守点検、学校備品購入なども緊急度を優先し実施した。 ○学校給食では積極的に地場産品を活用し、21年度の活用率（食材数ベース）は平均50%となり、国、県の活用率30%を大きく上回った。また、西郷共同調理場の整備工事を実施した。	○教育委員会主催の、特別支援教育、小学校外国語活動、花壇の研修は、学校現場のニーズにあった研修会で、参加者も多く、好評であった。 ○教育センターの老朽化により、次年度、適切な場所への移転を計画する。現在の機能に加え、外国人支援や学校図書館支援などの新たな教育的課題への対応をする。 ○学校管理者と教育委員会との緊急メールシステムは、緊急時の対応に大変有効である。各校において、一層保護者の加入率を上げるよう、学校への指導をする。 ○教育センターを移転し、外国人や図書館、特別支援など新たな教育的ニーズにきちんと対応できる教育センターとする必要がある。 ○施設整備は、学習の場とともに地域の避難場所としても重要であり、優先度は高とし、今後も計画的な整備を図る。 ○活用率を上げるため、地元生産者、農協、納入業者との連携強化を図るため、地産地消を推進する会の設置をする。 ○上記を総合的に判断し、達成度はB+とした。
A	B+	B-	C										
	☆												
	35	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○目標達成度については、B+が3項目、B-が2項目であり、基本目標はおおむね達成している。	○5項目中4項目の優先度が高であるため優先度は高とした。 ○達成度については、B+が3項目、B-が2項目であることから、全体の評価としてB+とした。 ○今後は、B+とB-の項目について、更に達成度を高めていきたい。
A	B+	B-	C										
	☆												

		人づくり構想かけがわ 基本目標「夢実現に向かう、心豊かで凜(りん)とした市民」の育成													
大項目	基本目標	重点と具体的施策			達成度	21年度実績	21年度点検評価(次年度に向けた改善点等含む)								
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	社会教育 市民の主体性を尊重し、学校・家庭・地域社会の連携・協力のもと、心身共に健康でたくましく知性と創意に富み、郷土に誇りと愛着を感じる市民の育成	①次代を担う青少年健全育成の推進	36	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td>☆</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C	☆				○副読本「この人に学びたい～掛川偉人ものがたり～」※は、年度内に作成することができた。 ○通学合宿※や放課後子ども教室※など体験型学習活動の推進では、PRなど努力をし、放課後子ども教室の実施地区を1箇所増やすことができた。 ○学校・家庭・地域が連携し、補導センター活動※や青少年健全育成活動※を継続して実施した。	○学校・家庭・地域社会が連携し、青少年健全育成を推進するために中学校区学園化構想の推進と併せて、既存組織のあり方の検討が必要である。 ○放課後子ども教室の増や平成22年市民意識調査において、子どもが心身ともに健全に成長していると思う市民の割合での高い数値(69.7%)など総合的に評価し、達成度はAとした。
		A	B+	B-	C										
		☆													
		②家庭教育力の向上	37	高	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○家庭教育学級※については、親自らが、子どもの成長や子どもを取り巻く環境・文化について考え、学習することを目的に公立園11園、私立幼保園6園で開設された。 ○家庭教育の支援を図る子育てサポーター派遣事業※は、研修会への参加や家庭教育学級への派遣を行った。 ○家庭教育出前講座※は、4社で実施し、106人の方に参加していただいた。	○家庭教育学級の開設では、更に充実した学習内容や委託料の有効活用について情報交換が必要と考えられる。 ○保護者を対象とした相談・支援体制の充実とネットワークづくりでは、特にネットワークづくりについて調査研究が必要である。 ○年度当初に予定していた事業は計画どおり実施したが、若干の課題等を考え総合的に判断し、達成度はB+とした。
		A	B+	B-	C										
	☆														
③生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり	38	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○各種講座・教室や文化芸術に触れる機会の提供を昨年度に引き続き実施した。 ○市民大学・大学院や女性会議の開催により生涯学習リーダーの育成に努めた。 ○「子ども読書活動推進会議」を7月・11月・2月と3回開催し、子ども読書活動推進計画の進行管理を行った。 ○「子ども読書の日・読書週間・図書館フェスティバル」を通じて、子どもの読書活動の推進を図った。	○新たな生涯学習リーダーを育成するために団塊世代を対象とした企画等が必要である。 ○2010年は「国民読書年」であることから、市民の読書に対する意識を高め、図書館をもっと活用してもらうために、移動図書館や家庭文庫等の取組が必要である。 ○平成22年市民意識調査において、生きがいを感じる活動や趣味に取り組む市民の割合は55.9%であり、総合的に判断し、達成度はB+とした。		
A	B+	B-	C												
	☆														
④郷土の歴史や文化を愛する心の育成	39	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○国民文化祭しずおか2009※・掛川市開催3事業の現代詩、アートフェスティバル、お茶フェスタについては、多くの皆様の協力により成功に終わった。 ○大須賀歴史民俗資料館で民具を使った「お話しタイムマシン」を開催し、多くの子どもたちに見学していただいた。 ○国指定の3史跡については、厳しい財政事情もあり、公有化や整備など計画的な推進には至らなかった。	○国民文化祭を通じてひとつの文化が市民の間で芽吹いたことが感じられ、新たな発展が期待される。 ○国指定の3史跡の保護・保存・整備については、推進していくためにも継続して主な取り組みとすることが必要である。 ○新たな取り組みにより啓発活動に取り組んでいるが、史跡の整備などに課題があり、達成度はB+とした。		
A	B+	B-	C												
	☆														
⑤生涯スポーツの振興	40	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○スポーツ振興基本計画※の策定については、各種アンケート調査をもとに課題を整理し、計画どおり策定することができた。 ○各種競技大会、スポーツ教室、イベントなどを体育協会や体育指導員等と連携して実施した。 ○スポーツ施設の管理・整備では、老朽化した施設の修理工事等を実施し、利用者に満足していただくよう努めた。	○掛川市が推進しているトランポリン競技の推進のために競技団体の育成が必要である。また、次年度は、トランポリンの国際大会が開催されるので大会が成功するよう取り組む必要がある。 ○平成22年市民意識調査において、週1回以上スポーツ・レクリエーションに取り組む市民の割合は31.9%であるが、スポーツ施設は多くの方に利用していただいております。総合的に判断し、達成度はB+とした。		
A	B+	B-	C												
	☆														
			41	中	←達成度 <table><tr><td>A</td><td>B+</td><td>B-</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>☆</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B+	B-	C		☆			○副読本「この人に学びたい～掛川偉人ものがたり～」の作成やスポーツ振興基本計画の策定など、おおむね計画通り事業については実施できたと判断するが、施設などの整備や史跡の整備については課題を残した。 ○基本目標達成のための5つの具体施策では、達成度Aが1つ、B+が4つと前年度並みの達成度であった。	○更に事業を推進していくためには、課題・問題点も多く、課題や問題点の解決に向けて計画的な取り組みが必要である。そのために主要な取組として対応するとともに事業の進行管理に努める。 ○総合的に判断し、優先度は中、達成度はB+とした。
A	B+	B-	C												
	☆														

総合評価

達成度、優先度に関するマトリックス

					優先度 小計	
↑ 優先度	高		(3-26)(3-31)	(1-2)(1-4) (1-5)(1-7) (3-25)(3-27) (3-28)(3-29) (3-30)(3-33) (3-34)(3-35) (3-37)	(1-1)(3-24) (3-36)	18
	中		(1-3)(1-6) (3-32)	(1-8)(3-38) (3-39)(3-40) (3-41)		8
	低					0
達成度 小計	0	5	18	3		
	C	B -	B +	A		
達成度→						

計 26 項目

註1:マトリックス内の数字は大項目と通し項目番号を表す。

例 (1-4)は大項目1、通し項目番号4

註2:項目番号9～23については、達成度・優先度の評価をしていないため、掲載していない。

総合評価

1. 評価できる点

掛川市教育委員会が、国の法律に基づいた自己点検・評価を取り入れて2年目を迎えた。今年度は、昨年度より具体的な記述が多く、評価がより分かりやすいものになっている。

特に、「実績」欄の記述が一層具体的になり、「評価」欄も的確になっている。全体的に、掛川市の教育が「人づくり構想かけがわ」の重点施策に基づいて、基本目標の達成に努力した様子がうかがえる。

領域別に見ると、「乳幼児教育」は、全国に先駆けた幼保園の開園をはじめ、子育て支援センター事業の展開、リーダー交流研修会の実施など、人材育成の基礎として掛川市幼児教育振興計画に基づいた施策が打ち出されている。

「学校教育」は、特別支援学級掛川方式の検討、構内 LAN の整備、英語教育の掛川市レスンプラン、学力向上研究、退職教職員ボランティア活用など、多くの面で掛川方式の教育が推進されている。

「社会教育」は、家庭教育学級の開設、放課後子ども教室の増加、生涯学習リーダーの育成、スポーツ振興基本計画の策定など、学校教育や地域活動と連携した取組が積極的に行われている。また、副読本「この人に学びたい～掛川偉人ものがたり～」の評判がよい。

2. 今後の課題となる点

掛川市は美しく変化に富んだ自然と教育、文化、歴史的資源に恵まれている。こうした豊かさを生かした郷土学習を教育の中核に据えることが重要である。そのために、「人づくり構想かけがわ」の具現化に際して、掛川市に関係した歴史・文化・芸術・スポーツ等に関する人材やボランティアを活用することが重要である。

とりわけ、「乳幼児教育」、「学校教育」、「社会教育」のそれぞれの領域において、積極的にボランティアを活用することが、掛川らしい教育の実現につながる。そのために、ボランティア活動を人材バンクとして把握・紹介・運営する仕組みを行政の中に取り入れることが必要である。

昨年度も指摘された点として、次の2点が継続的な課題である。第1は、教育委員会の情報公開が今年度も課題となっている。本自己点検・評価の結果を広報することをはじめ、教育委員会の施策を広く市民に伝えたり、教育現場や市民の声を教育施策に反映させるための活動をさらに工夫していくことが望まれる。関連して、教育委員会との意見交換会、教育施策の広報や会議の夜間開催なども積極的に推進していきたい。

第2は、総合評価の結果がB+に集中しがちなことである。A評価とC評価を含め、総合評価のバランスを一層適正に修正することはできないか。教育目標の達成には長期の年月を要するため、教育成果が十分出していない時期には、C評価があっても当然と考えられる。C評価は、将来に向けて取り組んでいる証と考え、A評価とC評価の割合を現在より多くし、全体としてバランスのとれた自己点検・評価にしていくことが重要である。

また、市民が読みやすいことを考慮すれば、自己点検・評価シートの記述部分を思い切って簡略化し、次年度の課題や提言が焦点化されるよう改善することが期待される。

平成22年8月
掛川市教育委員会評価委員会
委員長 山崎保寿

評価を受けて

教育委員会の事務に関する点検評価をするにあたり、客観性、公平性を確保するため、5人の評価委員の方々の豊富な経験や知識をお借りし、ここに報告書としてまとめることができました。もとよりこの評価は教育委員会活動の充実を図るためのものであり、その視点から委員の皆さまには活発に協議していただき、各項目について御意見や御指摘をいただき、的確な評価を得ましたことを、大変ありがたく思っています。

評価項目26項目中、Aの評価が3項目、B+が18項目、B-が5項目、Cはゼロという大変高い評価をいただきました。特に、評価された点としては、昨年度に比べ、「実績」欄の記述が一層具体的になったことにより、「評価」欄も的確な記述をしていただいたことです。また、「乳幼児教育」「学校教育」「社会教育」の全体を通して、「人づくり構想かけがわ」の平成21年度の主要な取り組みを柱にして、目標達成に努力した点が高く評価されました。

改善点としては、大項目1「教育委員会の活動」の中で、「情報発信」が、継続的な課題となっています。教育委員会の公開や地域への情報発信について、広報誌や市のホームページを活用し、現場の意見を聞くなど努力してはおりますが、更に積極的に推進していく必要があります。教育活動のより一層の充実を図るためには、市民の皆さんの御理解と御協力が不可欠であり、教育委員会の施策を広く市民に伝え、教育現場や市民の声を教育施策に反映させるための活動をさらに工夫してまいります。

また、大項目3の「乳幼児教育」の中の「環境整備」、「学校教育」の中の「感性・心身を育む」が課題となっています。これらはいずれも簡単に目標に到達できるものではありませんが、教育の根幹をなすものであるだけに、引き続き努力して参ります。

更にこの評価報告書につきまして、次年度の課題や提言が焦点化されるよう工夫するとともに、市民の皆様が理解しやすいものに改善をしていきたいと考えています。また、評価とともに次年度に向けた改善も指摘していただきましたので、今後の活動に生かす所存です。今回は21年度の評価ですが、現実には22年度が始まっているわけで、最終的な評価を受ける前に、すでに改善に向けて取り組んでいる企画もありますことを御承知ください。

この評価を通して、市民の皆様には教育委員会の活動や施策について御理解を賜り、また御意見や御協力をいただきながら、更に掛川市の教育の振興に努めていきたいと考えております。重ねて評価委員会の皆様の御尽力に感謝するとともに、市民の皆様の御理解、御協力をお願いします。

平成22年8月
掛川市教育委員会
教育委員長 小野恵美子

各分野の基本目標と重点施策

「豊かな生涯学習社会の構築」「報徳の教えなどを大切にする豊かな心の育成」「市民、NPO法人、ボランティア団体、企業との協働」などによる掛川市ならではの**人づくり・まちづくり**を推進するとともに、外部識者による点検・評価委員会を設置し、その進行管理を行い、実効性を高めます。

乳幼児教育

基本目標

豊かなふれ合いや生活体験の中で個性を発揮し、自立心と、人とのかかわる力のある子どもの育成

重点施策

1 養護・教育内容の充実

「生きる力」の基礎を育む養護及び教育を推進する。

(1) 一人一人の成長を促す教育・保育課程と指導計画の充実

(2) 乳幼児期から児童期への教育の円滑な移行を目指し、乳幼児教育における教育内容や指導方法の充実

(3) 豊かな生活体験の場の工夫、豊かな感性と表現力、自己肯定感を育む遊びや活動の推進



2 保育者の資質・意欲の向上

研修を通して、子どもの今日的課題を踏まえた保育者の資質向上を図る。

(1) 園内研修の充実と、学び合う職員集団づくりの確立

(2) 保育者の専門性を高めるための研修推進、小学校教員との連携・交流の推進

(3) 特別支援教育理解推進のための保育者の資質向上

3 安全・安心で豊かな園環境の整備

乳幼児が心身共にのびのびと生活できる環境整備を推進する。

(1) 園児の安全確保及び、園の安全管理に向けての取組

(2) 安全で安心して生活できる施設・設備の充実

(3) 乳幼児が主体的にのびのびと遊ぶことができる環境の確保

4 家庭・地域社会と連携した園

家庭や地域社会と連携し、お互いに育ち合う教育を進める。

(1) 子育て支援体制の充実

(2) 「園評価」の実施と情報公開の推進、地域社会の教育力の活用

(3) 小中学校との連携の推進

5 保育一元・幼保一元化の推進

本市における「保育一元・幼保一元化」を進める。

(1) 幼稚園・保育園の適正規模化、市の「幼保園の理念」に基づく園運営の推進

(2) 就学前教育の充実

(3) 幼稚園・保育園の園児交流活動の推進



学校教育

基本目標

夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

重点施策

1 「確かな学力」の向上を目指す学校

基礎・基本を確実に身に付け、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力など「確かな学力」をそなえた子どもを育成する。

(1) 魅力ある授業の展開

(2) 少人数指導、特別支援教育など個に応じた指導体制の確立

(3) 自ら課題を見つけ、自ら追求する「総合的な学習の時間」の充実

(4) 小学校の外国語活動の実践研究

(5) 保幼小中連携・一貫教育（中学校区学園化構想）の推進

(6) 学校環境の学習教材への転換

2 豊かな感性、健やかな心身を育む学校

生かされていることに感謝し、自他の命を大切にするとともに、物事に粘り強く取り組む子どもを育成する。

(1) 道德教育の充実

(2) 豊かな心を育む読書活動の推進

(3) 食育の推進、健康増進と体力・たくましさの育成

(4) 学校の音楽活動支援など、文化芸術活動の推進



3 家庭・地域社会と連携した開かれた学校

自然・歴史・文化・人材などの豊かな資源を生かした教育を推進する。

(1) 地域ボランティアや「その道のプロ」を活用した教育活動の展開

(2) 地域の自然・歴史・文化などを生かした体験学習の重視

(3) 学校評価の実施と教育活動成果の発信

(4) キャリア教育の推進

(5) 学校文化の創造支援

4 社会の変化に対応する学校

情報化・国際化の進展など社会の変化に対応した教育を推進する。

(1) 学校間ネットワークの構築と情報教育の推進

(2) 外国人児童生徒の指導の充実

(3) 学校2学期制の充実

(4) 学校の適正配置などの検討

5 信頼される学校

「地域の太陽」として、子ども・保護者・地域住民から信頼される学校を創造する。

(1) 「頼もしい先生」を育成する研修の推進

(2) 安全・安心な教育環境の整備

(3) 生徒指導、就学指導、教育相談システムの充実

(4) 安全・安心な学校給食の推進

(5) 調理場施設の安全性確保（耐震化の推進）

(6) 災害に強い学校施設の整備

社会教育

基本目標

市民の主体性を尊重し、学校・家庭・地域社会の連携・協力の下、心身共に健康でたくましく知性と創意に富み、郷土に誇りと愛着を感じる市民の育成

重点施策

1 次代を担う青少年健全育成の推進

学校・家庭・地域社会が連携して見守り、育むことにより、青少年が正しい判断をする力を身に付けるよう導く。

(1) 青少年問題協議会活動、非行防止活動の充実

(2) 青少年健全育成会活動の充実

(3) 体験学習活動の充実

(4) 地域学習の推進



2 家庭教育力の向上

家庭教育に係る相談・学習・交流の場を提供し、健全な子育て支援を進める。

(1) 家庭教育に係る講座・教室など学習機会の充実

(2) 保護者を対象とした相談・支援体制の充実とネットワークづくり

3 生きがいに満ちた豊かな人・暮らしづくり

いつでも、どこでも、だれでも、どこからでも学べる生涯学習関連施策を充実し、自己を磨き、生きがいを見つけるために学び続けるとともに、お互いの人権を大切にすることを目指す。

(1) 生涯学習活動への参加促進と生涯学習機会の充実

(2) 公民館活動における学習機会の充実と今後のあり方検討

(3) 生涯学習リーダーの育成と登用

(4) 人権教育の推進

(5) 文化芸術に触れ親しむ機会の提供

(6) 男女共同参画意識の高揚

(7) 報徳の教えなどを大切にする豊かな心の育成

(8) 図書館サービスの充実及び読書活動の推進

4 郷土の歴史や文化を愛する心の育成

郷土芸能や郷土の遺産である文化財などを大切に育て、歴史と文化財の保護・保存・活用を進める。

(1) 二の丸美術館の運営の充実

(2) 吉岡彌生記念館の運営の充実

(3) 掛川城、御殿、二の丸茶室、大須賀歴史民俗資料館の運営の充実

(4) 埋蔵文化財の発掘調査と保護意識の高揚

(5) 埋蔵文化財の保存と活用

(6) 文化財の調査・保護・保存の推進

(7) 文化財保護団体や保存会などの活動支援

(8) 史跡整備と活用の推進

5 生涯スポーツの振興

すべての市民が楽しみながら身体を動かし、スポーツ・レクリエーションに親しむ健康で活力あふれる人づくりを進める。

(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

(2) 指導者の育成、スポーツ団体との連携

(3) スポーツ施設の整備、管理運営の充実とネットワーク化の推進



平成21年度の主要な取組

(1) 一時保育、延長保育等の多様な保育サービスの推進【4-(1)】

(2) 「幼児ことばの教室」や「発達相談員」による要支援児の保育の充実【1-(2)】

(3) 「預かり保育」、外国人園児の支援策の検討【4-(1)】

(4) 私立の幼保園・幼稚園・保育園との連携強化と園運営の支援策の充実【5-(1)】

(5) 三笠幼稚園の建設と市南部区域の乳幼児教育のあり方などの検討【5-(1)】

平成21年度の主要な取組

(1) 小学校の外国語活動の充実【1-(4)】

(2) 学校サポーターの派遣など特別支援教育の推進【1-(2)】

(3) 保幼小中連携・一貫教育（中学校区学園化構想）の推進【1-(5)】

(4) 原泉小・西郷小の統合【4-(4)】

(5) 学校給食における地産地消の推進【2-(3)】、【5-(4)】

平成21年度の主要な取組

(1) 副読本「この人に学びたい～掛川偉人ものがたり～」の作成・活用【1-(4)】

(2) 通学合宿や放課後子ども教室など体験型学習活動の推進【1-(3)】

(3) 子ども読書活動推進計画の推進【3-(8)】

(4) 国民文化祭しずおか2009・掛川市開催3事業の展開【3-(5)】

(5) スポーツ振興計画の策定【5-(1)】

参 考 資 料（関係法令）

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）》

（平成19年6月27日改正 平成20年4月1日施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規程により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を」行うことに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）》
（19文科初第535号 平成19年7月31日 文部科学事務次官）（抜粋）

第一 改正の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

（3）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととしたこと。点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとした。（法第27条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

（3）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

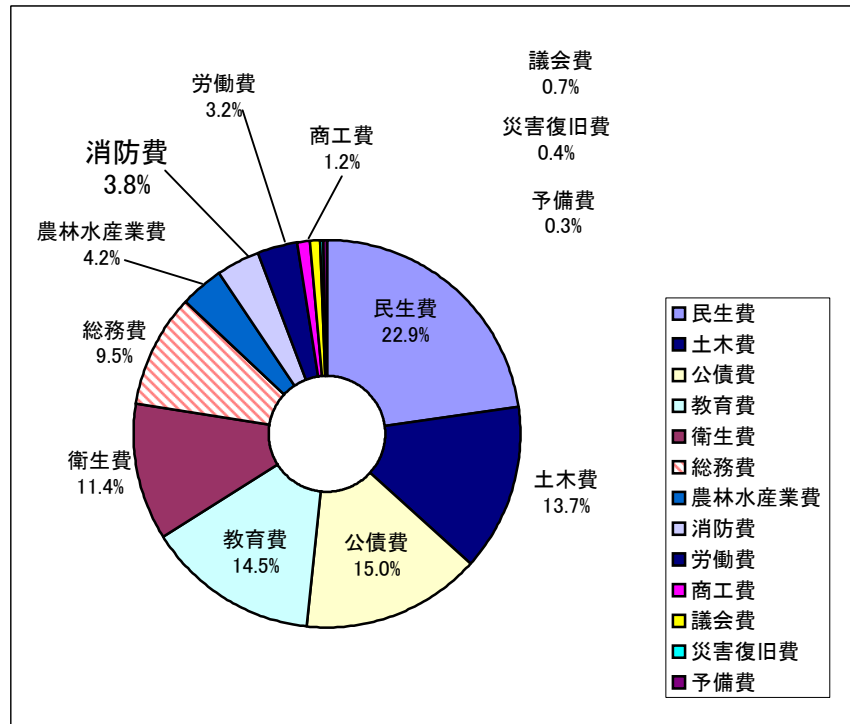
- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

平成21年度一般会計歳出予算と教育費予算

一般会計歳出予算

単位:千円

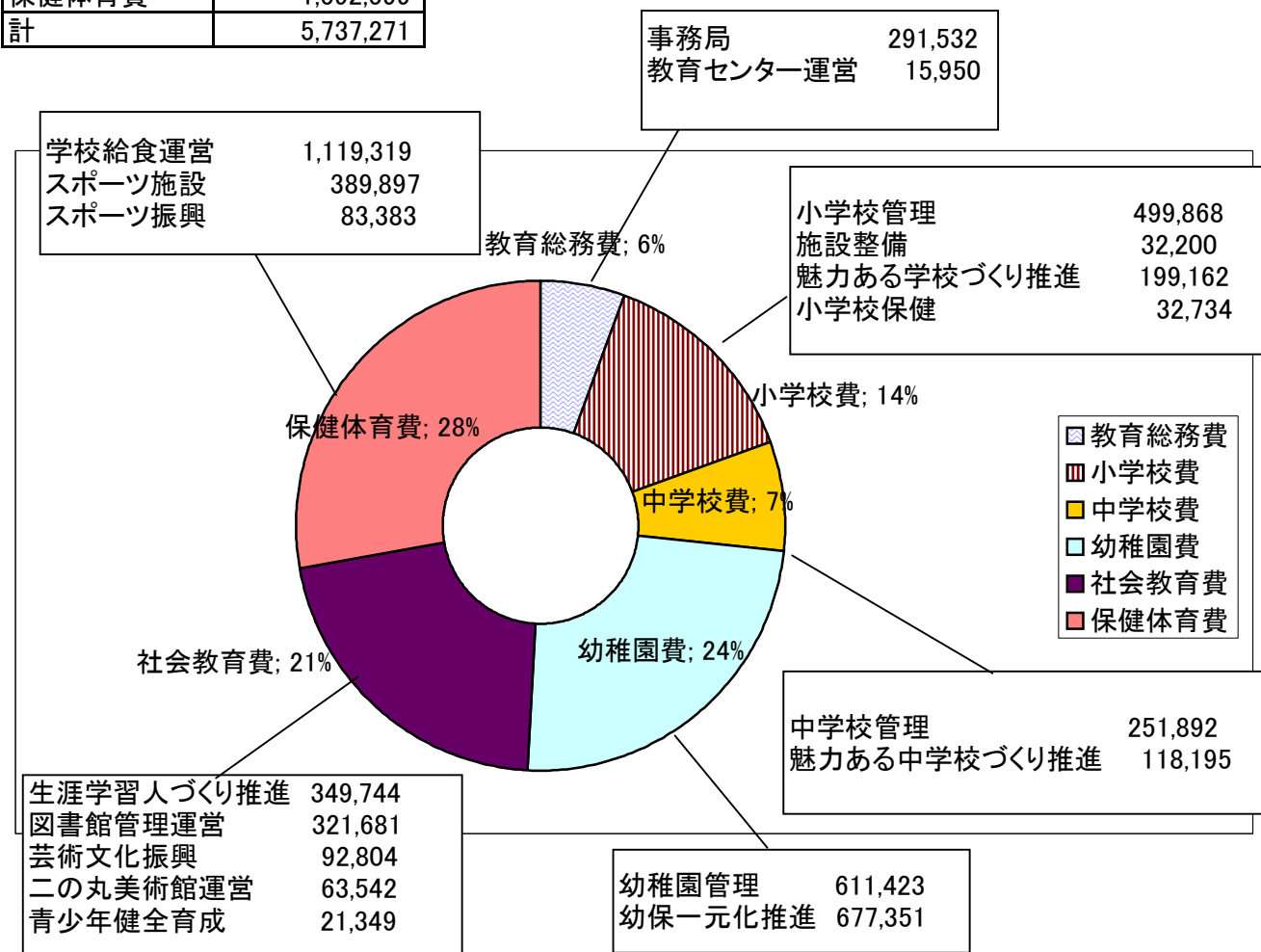
項目	予算額
民生費	9,074,884
土木費	5,437,704
公債費	5,933,500
教育費	5,737,271
衛生費	4,505,940
総務費	3,751,394
農林水産業費	1,404,164
消防費	1,478,613
労働費	1,254,128
商工費	482,938
議会費	268,724
災害復旧費	170,252
予備費	100,488
歳出額計	39,600,000



教育予算

単位:千円

項目	予算額
教育総務費	316,711
小学校費	798,346
中学校費	412,038
幼稚園費	1,395,590
社会教育費	1,221,987
保健体育費	1,592,599
計	5,737,271



注: 内は主要な項目のみあげてありますので、内の合計と教育予算は一致しません。

『第1次掛川市総合計画』数値目標に対する平成21年度の状況

成果指標	担当部署	20年度 状況	21年度 状況	23年度 中間目標	28年度 最終目標
学校が楽しいと思う児童生徒の割合	学校教育課	90.90%	91.90%	93%	95%
学校ボランティアとして活動している市民の数	学校教育課	1, 379人	1, 629人	1, 850人	2, 000人
3歳児の就園率	幼児教育課	90.69%	90.70%	87%	100%
待機児童数	幼児教育課	13人	14人	0人	0人
青少年の問題行動件数	生涯教育課	179件	332件	370件	350件
生きがいを感じる活動や趣味に取り組む 市民の割合	生涯教育課	55.50%	55.90%	67%	75%
生涯学習リーダーの人数	生涯教育課	294人	317人	500人	850人
週1回以上スポーツ・レクリエーションに 取り組む市民の割合	生涯教育課	30.20%	31.90%	39%	50%
市営のスポーツ施設利用者数	生涯教育課	88万人	90万人	120万人	140万人
文化財保存会・研究会等の数	生涯教育課	13団体	13団体	15団体	20団体

※本表は、平成19年4月に策定された『第1次掛川市総合計画』に掲載されている各種数値目標をまとめたものです。

※総合計画には、23年度の間目標、28年度最終目標が掲載されており、計画の進ちょく状況を見てもらうため、平成21年度の状況を示しました。

用語解説

■あ行

【移動教育委員会】

教育委員が、教育に対する理解を深めたり地域住民へ情報を発信したりするために、教育委員会での協議・報告の場を園・学校や所管施設に移し、意見交換や視察を行うもの。

■か行

【かけがわ教育の日】

平成 19 年度に初めて開催した。市民一人一人が教育の重要性を認識し、学校・家庭・地域社会が連携して、教育のあり方を考え、行動するための契機とし、教育の振興を図ることを目的としている。また、開催にあたっては、教育を支援している団体による「かけがわ教育の日」協力団体協議会が組織されている。（平成 22 年度現在、協力団体数は 51 団体）

【掛川市保育ママ事業】

保護者の就労等により、自宅等で面倒を見られない児童を「保育ママ」の自宅やその他、適切な場所において保育する事業。

【掛川市幼児教育振興計画】

旧掛川市が平成 12 年 3 月に策定した市の幼児教育の指針である。

幼児教育の重要性に鑑み、幼児の生活・発達・学びの連続性を踏まえて、幼児教育を充実させていくためにあり方や方策を示したもの。

【掛川市LESSンプラン】

平成 21 年度、掛川市の A L T と掛川市教育委員会学校教育課で作成した、外国語活動教師用指導資料集である。内容は、外国語活動の学習指導案、活動の具体例や必要な教具（準備物）等をまとめてあり、5 年生用 4 冊、6 年生用 4 冊からなる。平成 21 年度に、市内前小中学校に配布すると共に、市内の小学校教諭対象に、掛川市LESSンプランを活用した指導の実際について研修会を行い、外国語活動の指導の充実を図っていった。

【掛川の教育】

掛川市の教育に関する基本的な目標や施策を総合的に示した「人づくり構想かけがわ」における、乳幼児教育・学校教育・社会教育の基本目標や重点と具体的施策をまとめたもの。

毎年印刷・発行され、当該年度の教育施策の基本となる。

【学校サポーター】

特別支援教育充実に向け、支援が必要であると判断された学校に派遣され、特別な支援を必要とする児童生徒の支援に当たる担任の補助を行う者。

【学校評価】

学校教育法により、学校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない、とされている。

具体的には、教職員が行う自己評価、保護者や地域住民などが行う学校関係者評価、専門家等による客観的な第三者評価が行われる。

【学校評議員】

「掛川市立小学校及び中学校の管理に関する規則」第 32 条により、学校には学校評議員を置くことができる。学校評議員は校長の推薦により、教育委員会が委嘱し、校長の求めに応じ、学校経営に関し、意見を述べることができる。

【家庭教育学級】

幼稚園や小学校を拠点として、親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行っていく事業。掛川市では幼稚園・幼保園を拠点として活動している。

【家庭教育出前講座】

市内の企業や・事業所に市から講師を派遣し、1 時間程度の講座を実施することにより、男性に基礎的な家庭教育の意義・役割や子どもの心理などを学習してもらう事業。

【教育委員会・教育委員長・教育長】

教育委員会とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置された合議制の執行機関である。

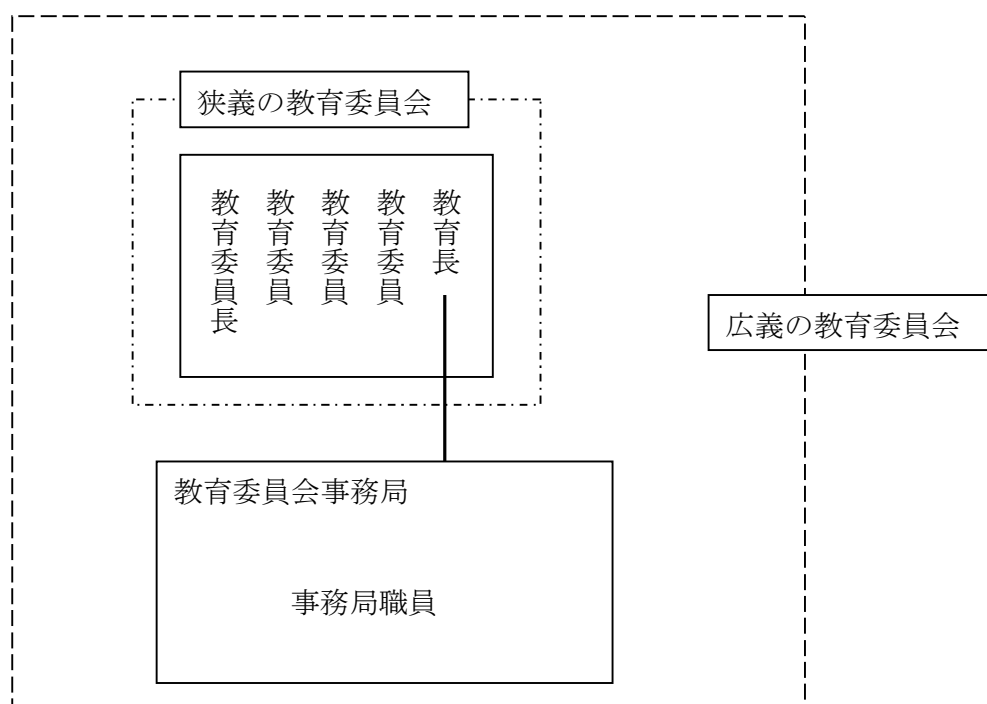
委員は議会の承認により首長によって任命され、委員による選挙により、教育委員長が 1 人選出される。

教育委員会は合議により、教育に関する一般方針の決定など、その権限に属する職務を遂行する。本来の教育委員会とはこの行政委員会を指すが、実務の処理のために、教育委員会事務局があり、事務職員が置かれている。この組織を広義の「教育委員会」と呼ぶことがある。

教育委員会事務局には、教育委員会の指揮監督の下に、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどるため、教育長が 1 人置かれている。

教育長は教育委員の中から教育委員会が任命する。

教育委員会機構図



【緊急メールシステム】

市内小中学校の保護者へ学校ごと、携帯電話のメールにより、不審者や災害等の情報を提供するシステムのこと。

各学校の保護者は携帯電話により、メールアドレスの登録を行う。学校では管理責任者がパソコンを使用して、登録されたメールアドレスに対して情報を発信する。メールを開封したかどうかの確認も可能である。保護者のメールアドレスは学校が管理することなく、業者で責任を持って管理する。

【校内LAN】

学校内のコンピュータをネットワークで接続したシステム。学校の中で、教員が指導案や教材などを共有したり、子どもたちの学習成果を保存・発表したり、電子メールなどで交流したりすることが可能。さらにインターネットや地域の教育用イントラネットと接続することにより、すべての教室の端末から、インターネットにアクセスすることが可能になるなど、これからの学校の情報化に不可欠な学習環境。（LANはLocal Area Networkの略で、日本語では「構内通信網」と訳される。）

【国民文化祭しずおか2009】

国民文化祭は、国内最大規模の文化イベントであり、各県が順番に開催している。2009年の当

番県が静岡県で、県内 36 市町においてイベントが開催された。

掛川市は「文芸祭・現代詩」「町並みと 3 城を結ぶアートフェスティバル」「お茶フェスタ in 掛川」の 3 事業と静岡県主催の「報徳フォーラム『日中で考える報徳文化と企業倫理』」の計 4 つの事業を開催した。

【子育てサポーター】

子育てサポーターは、家庭における子どもの理解やかかわり方などについて、家庭教育学級等の学習会の中で悩みを聞いたり、身近な立場で助言を行うなど、家庭教育に関する相談や啓発活動を行っている。担当は生涯教育課社会教育係。

■さ行

【在園障害児】（発達支援児）

実際に在園しており、支援を要する児童。

【指定研究校】

教育委員会で学校を指定し、特定のテーマと期間で教育に関する研究をしてもらうことを指定研究という。その対象となった学校。

【市民大学校・大学院】

まちづくりや地域づくり、そして掛川について、仲間といっしょに学び、そして体験する社会人向けの講座。講座の中心となる「人づくり講義」では、まちづくりのエキスパート、行政関係者、地域づくり実践者などから話を聞き教養を深める。「分科会活動」では、市外のまちづくりを視察したりグループで掛川のまちづくりについて自由に学ぶ。「学びのバス」では掛川の名所などを実際に訪ねて楽しく学ぶ。1 年間の学びが修了した後は、大学院に進学することもできる。

【市民意識調査】

複雑・多様化する市民ニーズを的確に捉えることを目的として実施する調査。市内在住で 20 歳以上の市民の中から 2, 000 人を抽出し、男女比率を 1 対 1 として実施する。平成 22 年度の回収率は 44. 2%。担当は企画調整課。

【女性会議】

本市が目指す、今後の男女共同参画社会において、女性はその能力を十分に発揮して地域づくりに参画できるよう学習を深めるとともに、意見を出し合い市政に参加する活動。女性会議の構成員は、女性会議員と呼ばれ、公募や地域からの推薦によって決まり、任期は 1 年。

【青少年健全育成会】

掛川市青少年健全育成会は、常に青少年を取り巻く今日的な青少年問題について、市民の創意を結集し、心身ともに健全な青少年の育成を図るために設立された。

掛川市青少年補導センターと連携し、補導活動や街頭キャンペーンを実施している。

【全国学力・学習状況調査】

国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握分析し、教育の結果を検証し、改善を図る事などを目的として実施される。

調査対象は小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒。

教科に関する調査（国語、算数・数学）と生活習慣や学習環境等に関する調査が行われる。

【スポーツ振興基本計画】

市民のスポーツを振興するため、スポーツ振興法（昭和36年9月）及び文部科学省が平成18年9月に改定した「スポーツ振興基本計画」、静岡県が平成17年3月に策定した「静岡県スポーツ振興基本計画」を踏まえて、掛川市は「掛川市スポーツ振興基本計画」を平成21年度に作成した。

■た行

【第1次掛川市総合計画】

掛川市が目指す将来都市像を示し、実現に向けた新しいまちづくりの指針として平成19年4月に策定された。

平成28年（2016年）を目標年次とし、掛川市のまちづくりの基本的な考え方「基本理念」と目指すべき「将来像」、その実現に向けた7つの柱「政策大綱」を示している。

総合計画については掛川市ホームページ上に掲載されている。

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/>

【中学校区学園化構想・中学校区学園化検討委員会】

中学校区ごとの幼・小・中が教育の連携を図ると共に、園や学校を核とした地域ぐるみで教育にあたるしくみのこと。

そこで、平成21年度に中学校区学園化検討委員会を設置し、あるべき姿や具体策を報告した。下記はその報告を受けてのまとめである。

中学校区の保育園、幼稚園、小学校、中学校が連携を確かなものにし、共に子どもの教育にあたりとともに、地域の教育力を園・学校に取り込む。

- 1 地域文化・学校文化の共通理解
- 2 中学校区子ども支援協議会（仮称）の設置
- 3 コーディネーターの設置
- 4 中学校区における園・学校間の学習内容の連携
- 5 連携一貫教育の研修体制の充実や職員の交流
- 6 「家庭教育の手引き」や「家庭学習の手引き」等の作成及び配付

【通学合宿】

異なる学年の子どもが、地域の宿泊可能な施設（公民館、集会所等）で一定期間共同生活を行いながら学校に通う体験学習。食事の準備や掃除などの基本的な生活体験を共同で体験することにより、集団生活への適応力、生活技能などを身に付ける機会となり、自主性・社会性・協調性・我慢する力などを育てる。

【特別支援学級掛川方式】

平成 19 年から 20 年度設置された「特別支援教育推進検討委員会」の報告書にまとめられた理念に基づく特別支援学級の設置方式のこと。

報告書では、「子どもは、教師から学ぶとともに多くの仲間とのかかわり合いの中からも大切なことを学び成長する。」「担任の意欲と指導力により、子どもは生き生きと活動し、大きく成長する。」と押さえ、この理念に基づいた特別支援学級の設置方式を「掛川方式」と名付け、以下のように定義した。

「掛川方式」とは、

- ① 複数の子どもが在籍して子ども同士で学び合いができ、
- ② 充実した環境のもとで担任教師の専門的な知識と経験に裏打ちされた指導が受けられ、
- ③ 居住地にある学校にも籍をおくことができ、地域とのかかわりを保ちながら就学することができる

特別支援学級の設置方式である。

【特別支援教育コーディネーター】

園内の特別支援教育の体制づくりや、保護者の相談窓口、学校、福祉・医療などの関係機関との連携窓口として、「連絡調整の役割」を担っている者を言う。掛川市内幼稚園・保育園の場合、特別支援教育コーディネーターは、各園の主任がその役割を担っている。

【特別支援教育推進検討委員会】

小中学校における特別支援学級の在り方について、これまでの経過や実情を分析し、子どもたちにとって望ましい特別支援学級の在り方について検討する委員会。平成 19 年 6 月に設置された。

■な行

【南部地区乳幼児教育検討委員会】

本市の幼保再編計画が進む中で、将来の乳幼児教育のあり方を見通し、大東・大須賀区域の望ましい乳幼児教育のあり方・方向性について協議検討する委員会。

■は行

【補導センター】

青少年の保護者からの相談への対応や、関係機関や団体と連携して補導活動を行い、青少年の健全育成を推進する組織。専任補導委員 25 人（中学校教諭 9 人 高校教諭 4 人 民間 12 人）地域補導委員 67 人（民間 67 人）という体制で活動している。

【人づくり構想かけがわ推進本部会議】

掛川市の教育構想「人づくり構想かけがわ」の基本目標である「夢実現に向かう、心豊かで凛(りん)とした市民」の育成を推進し、市長部局と教育委員会とが連携し教育行政に取り組むために、設置された会議。市長・副市長・教育委員・各部長が参加し、意見交換を行う。

【副読本「この人に学びたい～掛川偉人ものがたり～」】

人生の目標となるような偉人を再発見し、彼らの生き方・考え方・教訓等を児童、生徒に紹介し、自らの将来に対する目標・意欲・期待感の高揚を図ることを目的に、小学 5、6 年生の地域学習、歴史学習を進める際の副読本として作成。

【富士山の日】

美しい自然景観により、人の心を打ち、芸術や信仰を生み出してきた富士山を抱く静岡県において、すべての県民が富士山について学び、考え、思いを寄せ、富士山憲章り理念に基づき、後世に引き継ぐことを期する日として、2 月 23 日を「富士山の日」とする「静岡県富士山の日条例」が、平成 21 年 12 月 25 日に制定された。

条例において県は、富士山の日趣旨にかんがみ、富士山を後世に引き継ぐための県民運動の促進に努めるものとされている。

【放課後子ども教室】

地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちの安全で安心な居場所をつくり、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等に取り組み、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健康やかに成長していく環境を推進する活動。

【保幼小中一貫教育】

各中学校区内の保育園・幼稚園・小学校・中学校が連携と調整を図り、系統だった園・学校経営を構想することで指導効果をあげることなどを目的に、異校種間の研修や子どもの交流活動などを行う事業

■や行

【幼稚園評議員】

「掛川市立幼稚園の管理に関する規則」第 15 条により、幼稚園には幼稚園評議員を置くことができる。幼稚園評議員は園長の推薦により、教育委員会が委嘱し、園長の求めに応じ、幼稚園経営に関し、意見を述べることができる。

教育委員会の事務に関する自己点検・評価報告書(平成22年9月)

編集・発行 掛川市教育委員会事務局 調整室

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1番地の1

電話番号：0537-21-1109

FAX：0537-21-1222

e-mail：kyoikubu@city.kakegawa.shizuoka.jp